

# 事業名：福祉まるごと支援事業

【根拠法令】  
社会福祉法第106条の3第2項  
(包括的な支援体制の整備)



2024.3.12 令和6年3月定例会  
文教福祉常任委員会資料 保健福祉部

## <事業内容>

### 1. 事業の目的

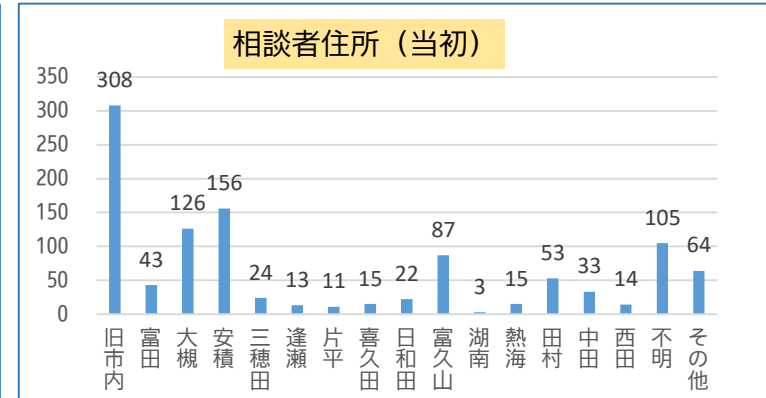
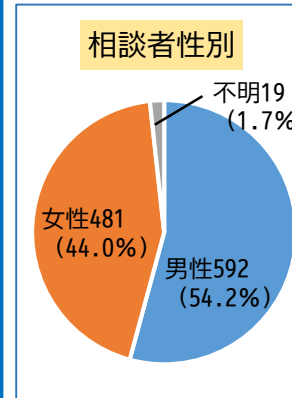
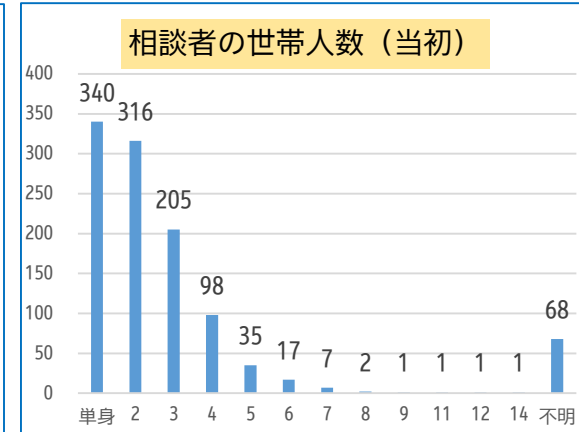
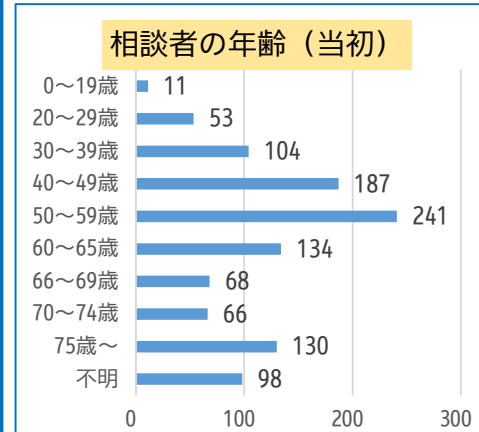
高齢、障がい、子育て、生活困窮などの福祉分野にわたる複数の課題がある世帯や、対象者本人に複数の課題を抱えている方及びその関係者からの相談を受け、課題を整理し、様々な相談機関につなぎ、世帯に寄り添いながら継続的にサポートし、スムーズな課題の解決を目指す。

2017 (H29) 年10月から、公募型プロポーザルによる委託事業者2者及び直営により、市内3か所に窓口を設置し事業開始。これまで相談件数累計は、新規相談1,092件、継続相談延べ11,007件となっている。(R6.1月末現在)

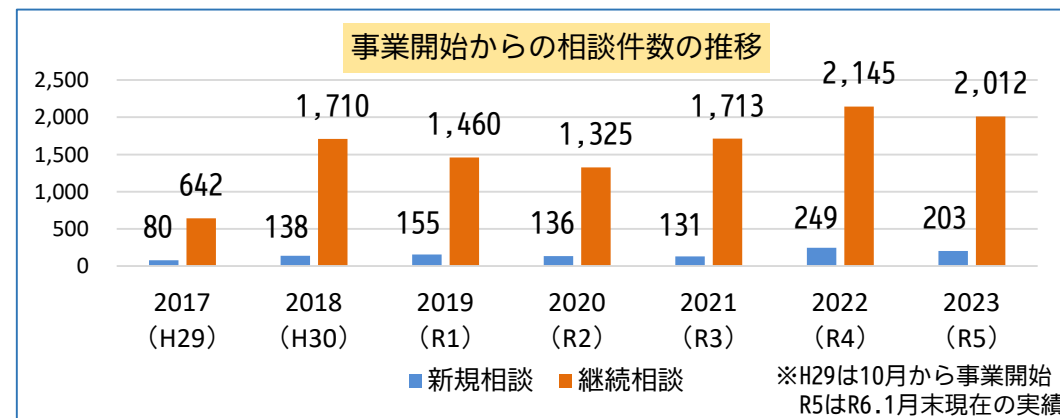
## <福祉まるごと相談窓口設置場所等>

区分	受託機関	住所	担当区域
北東エリア担当 (2名)	公益財団法人星総合病院	昭和二丁目17-2 (芳賀・小原田高齢者あんしんセンター内併設)	芳賀、小原田、富田、小山田、希望ヶ丘、片平、喜久田、日和田、西田、富久山、緑ヶ丘、東部、中田
南西エリア担当 (2名)	社会医療法人あさかホスピタル	安積町笹川字経坦45 地域総合サポートセンターコムニタ (あさかホスピタル内)	橘、三中、桜、久留米、安積、田村、大成、大槻、大槻東、逢瀬、三穂田
中央・湖南・熱海担当 (3名)	社会福祉法人郡山市社会福祉協議会	朝日一丁目23-7 (郡山市保健福祉総務課内)	金透、薫、赤木、芳山、桃見台、大島、開成、桑野、湖南、熱海

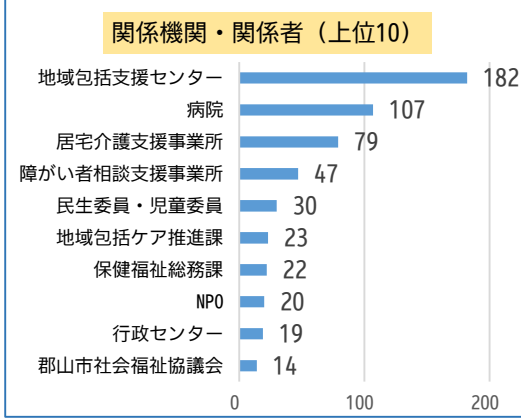
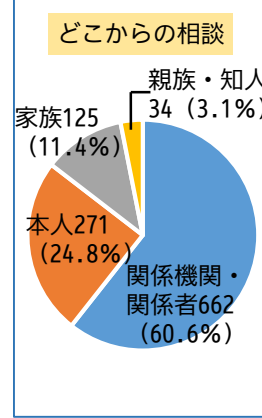
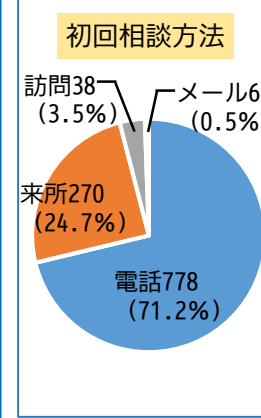
## <相談者(世帯)属性>



## <相談実績>



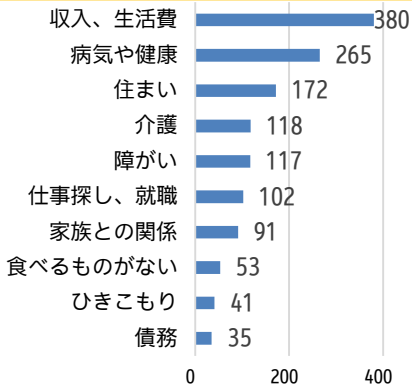
## <初回相談経路>



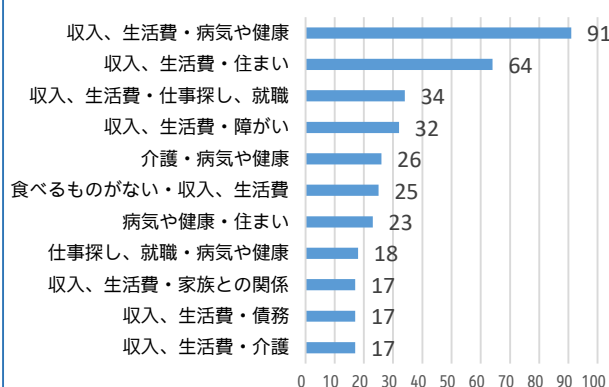
## <相談内容>

### <相談者が抱える課題について>

相談者の抱える課題（上位10）

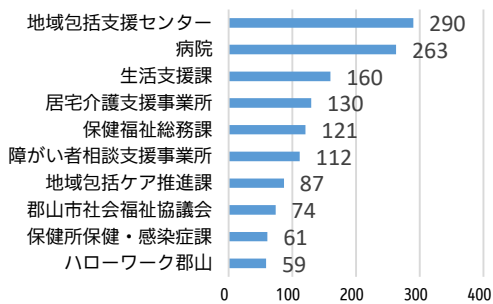


複数抱える課題のうち主要2つの組合せ（上位10）



## <支援のつながり先>

支援のつながり先（上位10）

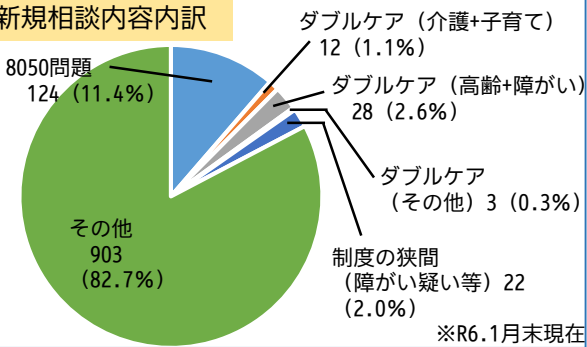


支援のつながり先数

最大9か所（4件）  
【代表事例概要】  
地域包括支援センターから、障がいのある高齢の母へ息子から暴力があり、就労していない息子のことも含め相談。  
【つながり先】  
地域包括ケア推進課、生活支援課、住宅政策課、高齢者施設、病院、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、保健福祉総務課、ハローワーク  
各事例の平均：1.7か所

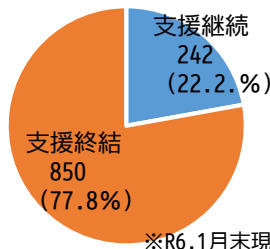
## <新規相談内容内訳>

新規相談内容内訳



## <支援終結>

支援継続・終結割合



## <支援期間・課題の概要>

### <支援期間>

令和6年1月に支援経過のある相談者で最長の事例

支援期間：4年9か月  
(初回相談：令和元年5月8日)

#### 【事例概要】

50代男性。80代両親と40代弟の4人世帯。母からの相談。会社でのいじめをきっかけに退職して以降10年以上無職。社会参加や就労について継続相談。

支援期間平均：1年8か月  
(1回のみ相談を除く)

### <課題数>

令和5年度新規相談事例で最大の課題を抱える事例

課題数：6（障がい・病気・子育て・不登校・介護・家族との関係）

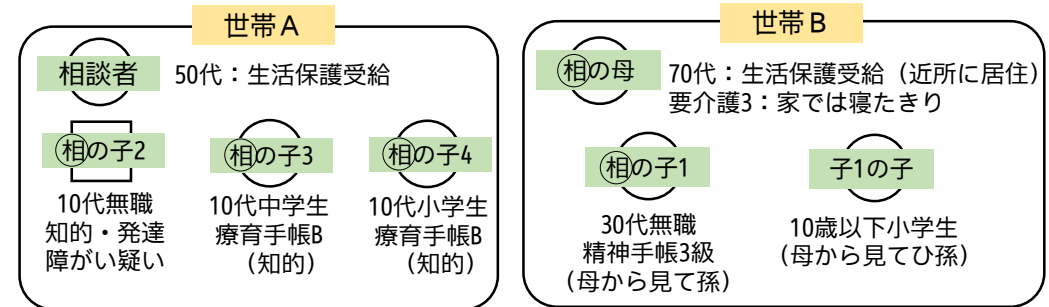
#### 【事例概要】

40代女性（相談者：うつ病）、実母（介護負担）、長男（中学生：自閉スペクトラム症）、長女（中学生：自閉スペクトラム症）、夫（障がいへの理解なし）の5人世帯。長女不登校。相談者の負担大。

平均課題数：2.8個（令和5年度新規相談事例）

## <相談事例>

※個人情報保護の観点から、実際の事例をもとに一部改編・簡素化しています。



相談者の母と同居の子1（母から見て孫）が母の介護を担えないため、相談者が担っている。相談者と同居する子3・4人にも障がいがあり負担が大きい。母の状態は悪化傾向。

相談者には債務があり、家計管理の課題もある。外部からの関わりに拒否感あり。

#### 【世帯A】

- ・子3および子4（手帳あり）には障がい児相談支援事業所を調整。
- ・相談者の債務について、福祉まるごと相談窓口相談員が法テラスへ同行し相談。過払い状態と分かり手続きを進める。
- ・法テラス同行がうまく進み相談者と信頼関係ができてきたため、まるごと相談員から相談者へ生活支援課ケースワーカーからの家計見直し支援を受けるよう促す。
- ・子2（知的・発達障がい疑いだが手帳なし）に対し、まるごと相談員が病院受診同行等支援。

#### 【世帯B】

- ・相談者の母へは、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーションで連携し病院受診等調整。
- ・子1には障がい者基幹相談支援センターで今後について調整検討。